

EZChrom クライアントサーバシステム

システム管理者ガイド(簡易マニュアル)

2010/01

Rev.2.0

このマニュアルは、"Agilent EZChrom Elite システム管理ガイド"マニ

ュアルを抜粋し編集したものです。

詳細は、上記マニュアルをご参照ください。



EZChromのシステム管理者は、EZChromクライアントサーバ環境において、機器の管理・ プロジェクトの管理・機器やプロジェクトにアクセスできるユーザやグループの管理を行います。

システム管理者の操作

- 1. システム管理モードにログインする
- 2. ロケーションを作成する(任意)
- 3. プロジェクトを作成する
- 4. ユーザ権限を割り当てる
- 5. 機器へのアクセス権を割り当てる
- 6. 既存のプロジェクトの設定を変更する
- 7. ユーザのログイン方法を定義する
- 8. ログオプション機能の設定
- 9. システム管理レポートの作成

付録 アドバンスファイルセキュリティと、エンタープライズフォルダ構造について



1. システム管理モードにログインする

システム管理の全ての操作は、システム管理モード(エンタープライズログイン)に EZChrom のシステム管理権限を持つユーザーがログインして行います。

1-1. EZChrom Elite を起動し、[ツール]ニューから[エンタープライズログイン]を選択します。



1-2. システム管理権限を持つユーザとパスワードを入力してログインします。

2. ロケーションを作成する(任意)

ロケーションを作成することにより、機器をグループで管理する事が出来ます。

2-1. 手順1に従い、システム管理モードにログインします。

2-2. [エンタープライズ]を右クリックし、[新規作成]-[ロケーション/グループ]を選択します。



2-3. 新規に作成されたロケーションはエンタープライズの下に表示されますので名前を変更します。



3. プロジェクトを作成する

プロジェクトは、メソッド、データ、シーケンスおよびテンプレートを保存する一連のディレクトリから構成されます。プロジェクトを使うことにより、関連するデータがすべてのユーザに一貫した指定のディレクトリに保存されますので、データ管理が容易になります。

プロジェクトは、お客様の管理やルールに応じて、自由に運用できます。

例えば、装置毎、製品ロット毎、製品開発テーマ毎、期間毎にプロジェクトで管理するなど。

3-1. 手順1に従い、システム管理モードにログインします。

3-2. EZChrom Elite を起動し、[ツール]ニューから[システム管理ウィザード]を選択します。



3-3. "システム管理ウィザードの選択 "画面の "プロジェクト" にチェックし、[次へ(N)>]を

クリックします。





3-4. [新しいプロジェクトの作成]を選択し[次へ(N)>]をクリックします。



3-5. プロジェクトの設定を行います。

	名前:	製品B
the state of the s	保存場所:	¥¥Enterprise01¥Enterprise_Server¥Projects
CHARLENN, LA	だ:	
1 Adde y sale	製品も用フロシ	191
a and a second sec	- ファイルの保存	場所
	メノットミ	¥¥Enterprise01¥Enterprise_Server¥Projects¥製品B¥刘小
- And Contraction of the owner	7'-9:	¥¥Enterprise01¥Enterprise_Server¥Projects¥製品B¥疗 [。] -欠
And the second s	シーケンス:	¥¥Enterprise01¥Enterprise_Server¥Projects¥製品B¥シーケンス
And the second s	テンフ・レート	¥¥EnterpriseD1¥Enterprise_Server¥Projects¥製品B¥テンプレー
	前処理:	W#Enterprise印WEnterprise ServerWProjects)#製品RX前処理

[名前]このフィールドにプロジェクト名を入力します。

[保存場所] プロジェクトの保存場所を入力します。

[メモ] プロジェクトの説明をテキストで入力します。

[ファイルの保存場所] プロジェクトのファイルの場所は、[保存場所]フィールドの入力に 基づいて自動的に作成されます。



3-6. プロジェクトの履歴設定を行います。



- [このプロジェクトの履歴設定は何ですか?]: 設定を適用するには履歴を選択するか[全履歴]を選択 します。
- [履歴理由]:ユーザーが選択できる履歴理由を定義します。
- [追加した理由]:理由を選択し、[追加]ボタンをクリックします。
- [変更理由のリスト]: 変更理由リストが表示されます。理由を削除するには、削除理由を

ハイライトして、[削除]をクリックします。

- [自動的に監査証跡を保存する]: このボックスをチェックすると、メソッドの履歴は自動的に保存されます。(コンプライアンス環境下で使用する場合、この設定を有効にすることを推奨します)
- [変更するたびに理由を入力する]: これを選択した場合、メソッドを変更するたびに変更理由を入力 する必要があります。
- [保存時に理由を入力する]:これを選択した場合ファイルを保存するときに変更理由を入力する必要が あります。(コンプライアンス環境下で使用する場合、この設定を有効にすることを推奨します)

[理由を入力しない]:これを選択した場合、変更理由を入力する必要はありません。



3-7. 電子署名規則の定義を行います。

プロジュクトの電子署名規則の設定				×
	このプロン゙ェクトにおける電・ プロン゙ェクト 製品B	子署名規則は何	可ですか?	
	規則名	 (高(1)	電子署名の理由 取消作成者です。	
	QA72-5%	4810.0	審査待ち	
	ラホマネージャ	_	承認	
A DECEMBER OF THE OWNER OWNE	変更管理者	_		
	技術者	(低い)		
And the second s	レヘル数: 3		修正	
	電子署名機能は、ユーザーナ ます。特に、更に高いレヘルの 無効にできます。	パテ [、] ータファイル上で電 2署名がされていない	子署名を無効にできることを禁止するために使用し い場合にのみ、ユーザーはデータファイルの電子署名を	
	2	キャンセル	< 戻る(B) 次へ(N) > 完了	

[規則名]: 電子署名の理由に沿った様々な電子署名規則のためのデフォルト名が表示されます。

変更したい規則名をハイライトさせることによって、規則名を変更することができます。

- [レベル数]: このプロジェクトのための電子署名のレベル数を選択します。デフォルト設定は、3で す。一度、電子署名したデータファイルについては、ここで設定した電子署名規則よりも低いレベ ルのユーザによって、取り消すことはできません。
- [電子署名の理由] : 現在の電子署名の理由が表示されます。電子署名の理由に対しての追加、変更お よび削除する場合は、[修正]ボタンをクリックします。
- 3-8. 新しいプロジェクトにアクセスできるユーザ/グループの指定を行います。

ユーザの選択
どのユーザー(このつわり:なり)の使用を許可しますか? カラシカ: 製品B ニサーを検索 ドカウ: ettest 潮れしたカラシナンが名を入力してください 全前を確認 潮れしたカラシナンが名を入力してください 全前を確認 潮れしたカラシナンが名を入力してください 全前を確認
[2] <u>キャンセル</u> 〈戻る(B) 汰へ(M) えて

"グループ"または"ユーザ"を選択します。

ユーザまたはグループを入力し、[名前を確認]ボタンをクリックします。

名前が確認されると緑色の矢印が表示されます。

緑色の矢印をクリックし"選択ユーザ"リストに名前が加わったら[次へ(N)>]をクリックします。



3-9._プロジェクトユーザへのアクセス権の設定を行います。

このプロジェクトにアクセス権を持つユーザ/グループにアクセス権を割り当てることができます。 権限を割り当てるには、マウスでハイライトさせてから、緑色の矢印をクリックします。 [次へ(N)>]をクリックします。

このフロジェクトに対して、どの4 フロジェクト:製品B 選択されたユーザー: 愛 agtest¥kobayashi	雀限をユーサ[、]ーに与	えますか?	
許可されていない権限		<u>許可された権限</u>	~
		▲ 機器アウテル・ティロケ ・ ロケハペーシ や セキュリティ ・ 共通フォルダへのアクセス	

3-10. ユーザの電子署名規則の設定を行います。

プロジェクトにアクセス権限を持つ各ユーザに対して、電子署名権限のレベルを選択して指定します。 [完了]をクリックします。

ユーザーの電子署名規則の設定			×
	このフロジェクトに対する電子署名数 フロジェクト 製品目 各ユーザー(に対して、電子署名 ユーザー agtestWkobayashi	見則は何ですか? G規則を選択してください。 <u> 電子客名の役類</u> 工	
			完了



4. ユーザ権限を割り当てる (3-8の手順をここでも実行できます)

- 4-1. 手順1に従い、システム管理モードにログインします。
- 4-2. EZChrom Elite を起動し、[ツール]ニューから[システム管理ウィザード]を選択します。



4-3. "システム管理ウィザードの選択"画面の"ユーザ"にチェックし、[次へ(N)>]をクリックします。





4-4. "グループ"または"ユーザ"を選択します。

ユーザまたはグループを入力し、[名前を確認]ボタンをクリックします。

名前が確認されると緑色の矢印が表示されます。

緑色の矢印をクリックし"選択ユーザ"リストに名前が加わったら[次へ(N)>]をクリックします。

選択されたユーザー		×
	ビのユーザ ^ー を変更しますか? - 場所 ユーザー ドダ(): 「actest 」 選択したわかとかんを入力して(だだい) 「sunukt このを増設? - 選択 ユーザー	
	C ヴルーフ°	
	(1) キャンセル 〈原る(9) 次へ(1) > 3	27

※グループ内の全てのユーザに同じ管理権限、機器使用権限およびプロジェクト使用権限を 割り当てる場合、個別に各ユーザを割り当てるよりもグループを選択してこの機能を実行 するほうが早く処理できます。

4-5. 管理権限の設定をします。



このユーザまたはグループにシステム管理機能へのアクセス権を与えるには、[システム管理] チェックボックスにチェックします。これには<u>ユーザウィザード、機器ウィザードおよびプロ</u>

<u>ジェクトウィザードへのアクセスが含まれます</u>。

重要) [システム管理]の権限をもつユーザには、各クライアントPCのOSのアドミニストレータ権限を 付与してください。



[スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[ユーザーアカウント]を起動し、[追加]ボタンをクリ ックします。"ユーザ名"と"ドメイン名"を入力し、[その他]:"Administrators"を選択しま す。

このユーザが機器管理機能にアクセスできるようにするには[機器管理]ボックスをクリックします。 このボックスを選択すると、ユーザは<u>機器の追加、削除および設定する機能を利用できます</u>。 どちらのボックスも選択されない場合、ユーザはシステム管理機能にも機器管理機能にもアクセスで きません。[次へ(N)>]をクリックします。

4-6. 機器の選択をします。



[選択可能な機器]ウィンドウに表示されたリストから、機器をダブルクリックするか、あるいは

クリックして選択してから緑色の矢印をクリックしてこのユーザ(またはグループ)に割り

当てる機器を決定します。

全ての装置をアクセス可能にするためには、"エンタープライズ"を選択して割り当てることができます。[次へ(N)>]をクリックします。



4-7. プロジェクトの選択をします。



ユーザ/グループがアクセスできるプロジェクトを選択できます。[選択可能なプロジェクト] ウィンドウから、プロジェクトを選択します。選択するには、マウスでダブルクリックするか、 あるいはクリックしてハイライトしてから緑色の矢印をクリックします。

[次へ(N)>]をクリックします。

4-8. ユーザアクセス権の設定をします。



プロジェクト内のユーザのアクセス権を割り当てるために使用します。

権限を割り当てるには、マウスでハイライトさせてから、緑色の矢印をクリックします。 [次へ(N)>]をクリックします。



4-9. ユーザの電子署名規則の設定をします。



各ユーザに対して、プロジェクト毎に電子署名権限のレベルを選択して指定します。 [完了]をクリックします。

5. 機器へのアクセス権を割り当てる(4-6.の手順を、ここでも設定できます。)

ユーザまたはグループを機器またはロケーションに割り当てることができます。

<u>手順 4-6 でユーザまたはグループに割り当てる機器の設定を行っていればこの手順はスキップできま</u> <u>す。</u>

5-1. 手順1に従い、システム管理モードにログインします。

5-2. EZChrom Elite を起動し、[ツール]ニューから[システム管理ウィザード]を選択します。





5-3. "システム管理ウィザードの選択"画面の"機器"にチェックし、[次へ(N)>]をクリックします。



5-4. ユーザまたはグループに割り当てたい機器またはロケーションを選択し、[次へ(N)>]を

クリックします。





5-5. 選択した機器またはロケーションにアクセス権を与えるユーザまたはグループを指定します。



"グループ"または"ユーザ"を選択します。

ユーザまたはグループを入力し、[名前を確認]ボタンをクリックします。

名前が確認されると緑色の矢印が表示されます。

緑色の矢印をクリックし、"選択ユーザ"リストに名前が加わったら、[完了]をクリックします。



6. 既存のプロジェクトの設定を変更する

6-1. 既存のプロジェクトの設定を変更する場合

"システム管理ウィザードの選択"画面の[プロジェクト]にチェックし、[次へ(N)>]を

クリックします。

[プロジェクトに対するユーザの割当]または[プロジェクト設定の変更]を選択し、[次へ(N)>]ボタン をクリックします。

対象のプロジェクトを選択し、設定を変更します。



※[プロジェクト設定の変更]ウィザードで設定できる項目は、[プロジェクトに対するユーザの割当] ウィザードで設定できる項目のすべてを含んでいますので、[プロジェクト設定の変更]ウ ィザード を使用することをお勧めします。

6-2. 既存のプロジェクトを削除する場合

"システム管理ウィザードの選択"画面の[プロジェクト]にチェックし、[次へ(N)>]をクリックします。

[プロジェクトの削除]をクリックした後、[次に]をクリックし、削除するプロジェクトを選択します。 フォルダは残りますが、データシステム内のプロジェクトにはアクセスできません。





※プロジェクトを削除する場合は、直接フォルダを削除しないで、必ずこのシステム管理ウィ

ザードからプロジェクトの削除を実施してください。



7. ユーザのログイン方法を定義する

7-1. 手順1に従い、システム管理モードにログインします。

7-2. [ツール]メニューから[オプション]を選択し、[エンタープライズ]タブをクリックします。

C 292170-26)	☞ ウライアント/サー	-V,−(<u>C</u>)
✓ ユーザーロゲインとアクセス権 ユーザーリスト(②): (使用するトラインを選択(の):	を有効(E) Windows ドメインコントローラ	•
iglagtest		ドメイン追加(<u>A</u>) ドメイン削除(<u>R</u>) 更新(<u>F</u>)
「 パスワートを保存する(P 「 ジングルログインモートを有 「 現在のトジインユー!) 効/にする(<u>S</u>) ゲーで自動ロゲイン(<u>D</u>).	ロックアウト設定(止)

[ロックアウト設定]

"ロックアウト"欄に入力した回数だけログインに失敗すると(パスワードの誤りなど)、そのユー ザはシステムからロックアウトされます。このユーザは、システム管理者がユーザーアカウントのロ ックを解除するまで、システムにアクセスすることはできません。

	U 1、正日ケオンパ麦		
ゥクアウトユーザ`ー(<u>O</u>):			
			ロック解除(山)
電子メール通知を有	耳効にする(<u>E)</u>		
信者(图):			
セージ(T):	ユーザー 〈USER〉(は、ロク	パンに失敗したため、マ	/) <machin< td=""></machin<>
and a state			
- ユーザーフログラムを	.有効にする(B)		
- ユーザーフログラムを -ザ〜フログラム(<u>P</u>):	有効にする(<u>B</u>)		
セージ(T):	コーザー 〈USER〉(よ、ロク	パンに失敗したため、マ	V) <mach< td=""></mach<>

[パスワードを保存する]

このチェックボックスにチェックを入れると、最初にユーザがシステムにログインしたとき、そのパ スワードが保存され、以後ログインする際にパスワードを入力する必要がなくなります。



[シングルログインモードを有効にする]

このチェックボックスにチェックを入れると、ある装置に一度ログインすると、以後の別の装置への ログインはそのログインしているユーザで自動的にログインされます。



8. ログオプション機能の設定

8-1. 手順1に従い、システム管理モードにログインします。

8-2. [ツール]メニューから[オプション]を選択し、[全般]タブをクリックします。

לילג 🔀
ワークステーション エンターフ [®] ライズ [×] E-Mail 全般
一般77%ョン
▼ すべての解析結果を保存する(R)
ロゲオフジョン
▶ 全プロジェクトで自動的にメソッドの監査証跡を保存する(M)
マ 全プロジェクトで自動的にシーケンスの監査証跡を保存する(S) マ ロジェクトでも動的にシーケンスの監査証跡を保存する(S) マ ロシュート
✓ 機器アクティビティロケのパーシゾはアーカイフド後にのみ可能にする(型)
IN 17/14/1/11/2/HX/C930E/
セキュリティオフジョン ロー・サイオフジョン
✓ 払5長でキュリテイ(型) ■ 現在のフーザーのロケアウトは意思(1) 20 min
機器ライセンス毎に更新: 1 ³⁰ min.
電子署名中のキャンセル時間: 2.0 min.
OK キャンセル 適用(A) ヘルプ

[すべての解析結果を保存する]

このボックスを選択した場合、データファイルの分析を行うたびに、結果がそのデータファイルに保存されます。このボックスを選択しないと、元の結果と最新の結果だけがファイルに保存されます。 (コンプライアンス環境下で使用する場合、この設定を有効にすることを推奨します)

[全プロジェクトで自動的にメソッドの履歴を保存する]

このオプションを選択した場合、全てのプロジェクトでメソッドの履歴が有効になります。プロジェ クト単位で設定したい場合は、ここでは有効にしないでプロジェクトシステム管理ウイザードのオプ ションにて設定します。

(コンプライアンス環境下で使用する場合、この設定を有効にすることを推奨します)

[全プロジェクトで自動的にシーケンスの履歴を保存する]

このオプションを選択した場合、全てのプロジェクトでシーケンスの履歴が有効になります。プロジェクト単位で設定したい場合は、ここでは有効にしないでプロジェクトシステム管理ウイザードのオ プションにて設定します。

(コンプライアンス環境下で使用する場合、この設定を有効にすることを推奨します)



[機器アクティビティログのパージはアーカイブ後にのみ可能にする]

このボックスを選択した場合、機器アクティビティログを消去する前にアーカイブする必要がありま す。(コンプライアンス環境下で使用する場合、この設定を有効にすることを推奨します)

[システムアクティビティログを有効にする]

このボックスを選択した場合、システムアクティビティログが有効になります。ただし、いったん設 定すると解除することはできません。

(コンプライアンス環境下で使用する場合、この設定を有効にすることを推奨します)

システムアクティビティログが有効になると、システムアクティビティログメニューも有効になりま す。メニューにアクセスするには、メインメニューの [ファイル]-[システムアクティビ ティログ]をクリックします。

ロゲの表示(<u>L</u>) 詳細表示(<u>D</u>)
マニュアル入力(<u>M</u>)
エクスホ°ート(<u>E</u>) アーカイフ°(<u>A</u>) ハ°ーシ°(<u>U</u>)
すべて印刷(P) 選択範囲の印刷(S)
最新の情報に更新(<u>R</u>)

[ログ表示]

これを選択するとシステムアクティビティログが表示されます。

[詳細表示]

これを選択した時、現在、選択された入力の詳細が表示されます。[戻る]と[次へ]ボタンを使用する ことで、他の詳細表示に移動することができます。

[マニュアル入力]

ログにマニュアルで入力するために使用します。

[エクスポート]

ログまたは選択した範囲のログについて指定したファイルにエクスポートするために使用します。

[アーカイブ]

ログをアーカイブするために使用します。Windowsスタートメニューの Chromatographyグループから [Archived Log Viewer]を起動することで、アーカイブされたファイルを見ることができます。



[パージ]

ログファイルの内容をパージするときにこのコマンドを使用します。パージを行う前に確認の ダイアログが表示されます。

[すべて印刷]

全てのログを印刷するために使用します。

[選択範囲の印刷]

ログの一部分を印刷するために使用します。

9. システム管理レポートの作成

システム管理レポートはシステム管理者が作成します。レポートには、設定やユーザーリストのよう な管理情報も含めることができます。

- 9-1. メインメニューの[ツール]-[システム管理レポート]を選択します。
- 9-2. システム管理レポートダイアログでレポートに加えたい事項を選択して、[継続]ボタンをクリックします。



付録 アドバンスファイルセキュリティ (AFS) と、

エンタープライズフォルダ構造について

アドバンストファイルセキュリティ(AFS)は、許可されていないアクセスからファイルを保護する、エ ンタープライズセキュリティモデルです。

アドバンストファイルセキュリティ(AFS)は、特別なユーザグループのメンバーだけがファイルにアク セスするように、EZChrom Elite Enterprise全体でのWindowsフォルダアクセス権限を修正します。 ー旦アドバンストファイルセキュリティ(AFS)が有効になると、停止することはできません。 このため、アドバンストファイルセキュリティ(AFS)で使用されるユーザグループとユーザーアカウン トは、管理者が作成する必要があります。この特別なユーザーアカウントは、保護されたファイルに アクセスするために、EZChrom Elite によって内部的に使用されます。

次に示す図は、EZChrom Elite セキュリティスキーマ下でのエンタープライズフォルダ構造を示した ものです。





Commonフォルダ

プロジェクト間のファイルの移動や共有を行うために、Commonフォルダは、エンタープライズパスの 下にあります。全てのログインユーザは、このフォルダにアクセスすることができます。